

5/3(金) 憲法記念日。まじっ！偉大です、いよいよ今日からゴールデンウィークの後半のスタートです。天気は上々、木のドリが爽やかな絶好の休日日和です。たかが挨拶、さしこ挨拶、大層なるなんがすね

2013. 5. 4~5. 10

今週の
倫理

メリハリをつけた挨拶 --。誰いでも出陣819号
か仲々出陣顔晴りしよう。

幸々運ぶアホ鳥

ある銀行で「当行が融資・支援する会社はどれも良くなっているのに、B社だけは再建がうまくいかない」という話題になりました。S氏に再建へ向けた白羽の矢が立ち、悩んだ末にB社への出向を決断しました。これからの困難を思うと、〈大変なことになった〉と思わずにはいられません。当時のB社は、ひどい経営状態であったからです。

同じ頃、入院していた父の見舞いに行きました。80歳を過ぎた父に出向の話伝えると、「それはそれでいいじゃないか。お世話になった銀行に恩返しするつもりで頑張りなさい」と励ましてくれたのです。その夜、病室で父と一緒に布団に入って寝ていると、出向先で全力を尽くす覚悟が固まりました。B社に行くからには、徹底してB社の人間になってやろうと意気込み、事前に色々調べていきましたが、社内に入ってみたところ、会社は想像以上に悪い状態でした。

業績が長年にわたり低迷していて、社員の士気が低く、すべてにおいてメリハリが感じられません。ワイシャツのボタンをはずし、ネクタイを緩めているベテランたち。だらしない長髪の若手社員。エレベーターで乗り合わせても挨拶さえしない女子社員たち。

そんな彼ら彼女らの意識改革から始めようと、まずS氏が行なったのは、大きな声で挨拶をすることでした。「おはようございます」とリーダーが明るく大きな声で挨拶するだけで、不穏な壁は取り払われていきました。



挨拶に磨きをかけ 社内の連帯感を高める

絵・今谷 鉄柱

そして、少しずつ社内に活気が戻り始め、「一緒にやっつていこう」という空気が漂い始めたのです。挨拶を交わすという日常レベルの努力から、S氏の出向の日々は始まったのです。「おはようございます」「ありがとうございます」「おはようございます」「ありがとうございます」など、明るい声が社内でも交わされています。挨拶に磨きをかけることによつて不景気の中を生き残り、大きく成長していくものです。

さらに工場を見て回ると、ひどい状況でした。機械は「時代物」で、効率が悪いと工場長が嘆いています。工場長は「他社の設備は完全自動化されています」「この機械はもう寿命です」と言い、それに従つて設備投資をする、その額は数億にも上る計算です。

S氏は「経営の苦労も知らずに、勝手なことばかり」と思いつつも、迷いが頭の中を駆けめぐりました。そこで改めて、社員一人ひとりに思いをめぐらせたのです。

ある日、S氏は全員を集めました。「君たちの要求について、いろいろと考えてみた。よし、全部やろう！」。社員全員から歓声が上がりました。「会社は落ちるところまで落ちた。しかし、会社のために頑張ってきた社員のことを考えよう」と決意したS氏。社員が会社を思う「本気度」に賭けたのです。

銀行から融資を得て、設備を整えました。各部署が一丸となって新分野にチャレンジを重ね、多くの難問を克服しました。業績はいつしか右肩上がりになっていったのです。